



## 日々の生活の中に喜びや生きがいを見つける

みなさんは日々の生活の中で、「生きていることに喜びを感じる」「子どもとの生活に生きがいを感じている」と思いながら過ごしていらっしゃるでしょうか。

喜びや生きがいは、日々の身近な生活の中で感じるすることができます。たとえば、「練習の成果が出て大会で優勝できた」「園芸に取り組み庭にきれいな花が咲いた」「家庭菜園でおいしい野菜が収穫できた」等、日常のありふれた生活の中にも喜びや生きがいを感じることができます。楽しみを見出しながら取り組むことにより、心の中に喜びや生きがいという気持ちが育まれるのだと思います。

喜びや生きがいの中でも「職場で手伝いをして喜んでもらえた」「町のゴミ拾いをすることで喜んでもらえた」「地域活動で手伝いをしたら喜んでもらえた」などのように“人に喜んでもらえた”“社会に貢献できた”ことにも喜びや生きがいを感じることができるのです。

また、仕事に生きがいを感じている人もおられるのではないのでしょうか。かつて一緒に仕事をしていた職場の先輩は、趣味のように働き、どんなに忙しい時でも嬉々として仕事に取り組んでおられました。仕事の中に喜びや生きがいを感じておられたのでしょうか、うらやましく思ったものです。

私がかつて勤務していたある学校で、朝、誰もいない教室で一輪挿しに花を活けている子どもの姿を見たことがあります。その子は、誰かに誉められたいという気持ちからやっていたのではないでしょう。教室の中に花があることで教室のみんなに気持ちよく過ごしてもらいたい、という願いを持っての行動だったのではないかと思います。教室に花を生けるということに生きがいを感じていたのではないのでしょうか。

今日、子どもが帰ってきたら、「学校で楽しかったことやうれしかったことは何？」と聞いてみてください。「算数の問題が解けたよ」「音楽の時間、みんなで楽しく歌ったよ」「体育の時間、逆上がりができるようになったよ」等と答える子どももいるでしょう。言葉にすることにより、学校での生活の中に喜びや生きがいを見つけ、学校に楽しく登校できるようになるのではないのでしょうか。

「青少年育成センターだより157号」で“私たちは人を幸せにするために生きている”という寂聴さんの言葉を紹介して、人としての本当の喜びについて考えました。他の人に喜んでもらえることに生きがいを感じることができる人間になりたいものですね。

※ 市民活動等でご利用いただいていた「文化福社会館」が、今年12月をもって廃館となります。これまで、会館の書架に置いてあった「青少年育成センターだより」を毎号、毎号、たくさんの方に読んでいただきありがとうございました。このセンターだよりは、防府市のホームページにも載せていますので、今後はそちらをご利用ください。初号から全てのものが載せてありますので、これまでのものも併せてご覧になってください。また、公民館にも配布していますので、最寄りの公民館に行かれて、職員へ声をかけていただければ読むことができるのでご利用ください。